



なごみの郷

祝祭日は国旗「日の丸」を揚げましょう

君が代は 千代に八千代に
さざれ石の いわおとなりて
こけのおすまで

第32号

令和7年

11月15日発行

奈加美神社

泉佐野市中庄 834

電話 462-7080

伊勢神宮 式年遷宮のはじまり

伊勢の神宮では二十年に一度、式年遷宮が行われ、御社殿や御神宝などを新しく造り替え、大御神様が新宮にお遷りになります。二十年に一度のことですが、大事業のため八年の歳月を掛けて準備が進められます。

前回は平成二十五年に行われており、今回は令和十五年に第六十三回目の式年遷宮が行われることになります。

昨年四月、神宮の大宮司・久邇朝尊氏が皇居を訪れ、天皇陛下の「御聴許」（ごちようきよ）、お許しを頂き、今年から式年遷宮に向けての諸祭儀が始まりました。

その始まりの年と重なり、高野山画僧・藤原祐寛先生のお弟子さんである、松嶋祐衣先生より、神宮と関わりの深い二見興玉神社の御祭神・猿田彦大神（サルタヒコノオオカミ）と夫婦岩の日本画をご奉納頂くこととなりました。



猿田彦大神 くみちひらきの神

猿田彦大神は日本書紀に「その鼻の長さ七咫、背の長さ七尺余。また口尻明く照れり。眼は八咫鏡の如くにして、照り輝けること赤かがちに似れりと。」と記されており、今の単位に換算すると、鼻の長さは約一・二メートル、背の高さは約二・一メートル。目はほうずきのように赤く、眼光は八咫の鏡のように強く光り輝くという異様な容姿です。この特徴から、天狗さんのモデルとも言われています。

猿田彦大神は神話の天孫降臨の段に登場し、天照大御神の孫神である邇邇芸命（ニニギノミコト）が高天原から地上に降るとき、案内役を務めた神様です。このことから、「みちびきの神」・「みちひらきの神」として広く信仰されています。

邇邇芸命を高千穂にご案内したのは、天宇受売命（アメノウズメノミコト）とともに、伊勢の狭長田（さながた）五十鈴の川上の地に戻り、開拓にあたられました。

猿田彦大神をお祀りする神社は全国に広く分布しますが、その総本社は三重県鈴鹿市に鎮座する伊勢国一之宮・椿大神社です。そして神宮の内宮の近くには、猿田彦大神の末裔・宇治土公（うじのつち

ぎみ・うじとこ）家が宮司家を継承する猿田彦神社が鎮座し、伊勢市二見町には二見興玉神社が鎮座します。

二見浦には有名な夫婦岩があり、その夫婦岩の間の延長上の沖の海中に「興玉神石（おきたましんせき）」という霊石があります。

第十一代垂仁天皇の御代、皇女・倭姫命（ヤマトヒメノミコト）が天照大御神をお祀りする地を求めて伊勢の地を訪れ、二見浦に御船を停められたとき、その霊石に猿田彦大神がご出現になり、倭姫命を五十鈴の川上にご案内され、その地に天照大御神がご鎮座されました。

そのようなことから天照大御神と猿田彦大神の縁は深く、伊勢参宮をする際は浜参宮といって、まず二見興玉神社に参拝します。二見浦の浜辺で潮水を用いてみそぎ祓えを行い、心身を清めて浄化し、外宮・内宮の順に詣でるといふしきたりが今に伝わります。

これから第六十三回式年遷宮に向けての諸祭議が続きます。皆様におかれましては日本の総氏神・伊勢の神宮に心をお寄せ頂き、折に触れてご参宮頂ければ幸いです。二十一年に一度、御社殿や御神宝を新しく造り替え、常に清々しく、若々しく甦（よみがえ）るといふ「常若（とこわか）」の思想はもとより、建築、伝統工芸の技術

の継承も担う日本独自のシステムを次世代に繋いで行くべく、皆様おひとりおひとりのお力で守ってまいりましょう。

神棚（札宮）のプレゼント く神棚に手を合わせて日々の安心を



もうすぐお正月を迎えますが、皆様のご自宅には神棚をお祀りされていますか？日々の安寧に感謝を捧げ、ご家族の健康や安全を願い、心の安らぎを感じる神棚はご自宅の神社です。

神棚には日本の総氏神・天照大御神と、氏神・奈加美神社の御札をお祀りします。そして特に信仰している神社や好きな神社、最近は「マイ神社」という造語もあるようですが、崇敬神社の御札を合わせてお祀りするのも良いでしょう。

私たちが日々を過ごす中で、良きこと、悪しきこと様々な巡り合わせがあります

が、生かされていること自体が奇跡的なことで、有難いことなのです。

「有難い」の語源は「有ることが難しい」からきています。生きていることが当たり前ではなく、生かされていることが有難いことなのです。

日々感謝の心をもって神棚に手を合わせ、お参りする習慣が身に付くと、謙虚な姿勢をもって人と交わり、謙虚な姿勢をもって事に当たることができます。

日頃から「ありがたい。ありがたい。」と心の中で唱えようと不思議に運が開けてくるものです。「神恩感謝」こそが開運への道しるべなのです。

日々の暮らしの中に、新たに神棚をお祀りしてみたいかがでしょうか。

お正月にあたり、伊勢の神宮と奈加美神社の御札をセットでお受け頂いた方には、一社造りの簡易札宮が、鳥居付き札立てをプレゼントいたします。数に限りがございますが、社務所までお尋ね下さい。

花勸進 花好き宮司の挑戦

〜ライトアップイベント開催〜

本年より始めさせて頂きました「花勸進」ですが、藤の季節に続いて紫陽花の季節にも多くの方々にご参拝、ご協力を



末社・大宮稲荷神社



末社・花社不二宮

頂き、いいスタートを切ることができました。そして新たな試みとしてライトアップも行い、境内が幻想な雰囲気になりました。

紫陽花のシーズンの六月七日には氏子青年会主催による「なかみ花あかり」が開催され、境内にはキッチンカーや宮脇泰彦先生による絵手紙あんどんのワーク



絵手紙あんどん

シヨップ、なかよしこども園の園児さんによる合唱など、大いに盛り上がりしました。

ライトアップの照明を点灯してからは、当社の神職・柳原由佳さん（ジャズピアニスト）によるピアノの演奏が景色とマッチして好評を頂きました。この「なかみ花あかり」も恒例の行事として毎年開催して頂く予定です。

石玉垣へ奉納のお願い



大宮稻荷神社の本殿周りの石玉垣に数本の余地がございます。ぜひご奉納賜りますよう宜しくお願い申し上げます。
奉納初穂料 三十万円（彫刻費用別途）

末社・不二宮の新しい御守

宮司が奉製した天然石のふじまもりと錦袋御守のふじまもりのご紹介です。



初穂料 2000円



初穂料 800円

安産戌の日まいり



奈加美神社に伝わる大絵馬
円山応挙の門弟により描かれたもので、神功皇后と、応神天皇を抱く武内宿禰（文化館に展示）

当社の主祭神は応神天皇（八幡さま）、そして配祭神には母君の神功皇后がお祀りされております。古事記によると約一八〇〇年前、神功皇后は朝鮮半島に出征した際、お腹に応神天皇を身ごもっており、その時に石を帯の中に巻き付け、帰還後に無事お産みになったことが記されています。このことから神功皇后は安産の神として崇められ、岩田帯の起源にもなったと言われています。安産祈願は一般的に妊娠五ヶ月の戌の日にお祓いを受け、岩田帯を着帯します。戌の日にお参りするのは犬が多産であり、安産であることに因みます。

目出度く子宝に恵まれた際には、戌の日の安産祈願にお参り下さい。安産御守、岩田帯と共に、普段でも簡易にお使い頂ける腹巻型の腹帯もお授けしております。

令和8年 安産戌の日表

1月	12日（月）24日（土）
2月	5日（木）17日（火）
3月	1日（日）13日（金）25日（水）
4月	6日（月）18日（土）30日（木）
5月	12日（火）24日（日）
6月	5日（金）17日（水）29日（月）
7月	11日（土）23日（木）
8月	4日（火）16日（日）28日（金）
9月	9日（水）21日（月）
10月	3日（土）15日（木）27日（火）
11月	8日（日）20日（金）
12月	2日（水）14日（月）26日（土）



ご祈祷のご案内

お宮参り・安産祈願・七五三厄除け・車のお祓い・地鎮祭住宅入居のお祓い、各種お祓い神道家葬祭・霊祭、神棚の相談等も受付致しております
お電話にてお問い合わせ下さい

公式ホームページ開設
<http://www.nakami.org>



インスタグラム・フェイスブック公式ページにフォローを宜しく願います